



作成日：2002年12月13日

改訂日：2016年 8月 1日

## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学物質等及び会社情報 製品等の名称

ステンレス鋼溶接用スパッタ付着防止剤

ウエル・ハイクラスト

#### 会社名

日本ウエルディング・ロッド株式会社

住所

東京都中央区銀座1-13-8

担当部門

本社業務本部

電話番号

03-3563-5173

FAX番号

03-3561-3665

緊急連絡先

03-3563-5173

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性

分類されない

健康に対する有害性

皮膚刺激性・腐食性

区分2

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

区分2

特定標的臓器・全身毒性(単回  
暴露)

区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性

分類されない

#### GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

皮膚刺激

強い眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後、手をよく洗うこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急措置]	<p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。</p> <p>皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。</p>
[保管]	<p>換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。</p>
[廃棄]	<p>施錠して保管すること。</p> <p>内容物/容器を国や地方自治体の基準に従って廃棄すること。</p>

**重要危険有害性**

皮膚、眼及び呼吸器への刺激

**3. 組成及び成分情報**

単一製品・混合物の区分  
成分情報

混合物

化学名または一般名	<p>(1) 炭酸カルシウム</p> <p>(2) 酸化チタン</p> <p>(3) グリセリン</p> <p>(4) セルロース</p> <p>(5) 水酸化カルシウム</p> <p>(6) 水</p>
CAS番号	<p>(1) 471-34-1</p> <p>(2) 13463-67-7</p> <p>(3) 56-81-5</p> <p>(4) 9004-34-6</p> <p>(5) 1305-62-0</p>
官報公示整理番号(化審法)	<p>(1) 1-122</p> <p>(2) 1-588</p> <p>(3) 2-242</p> <p>(4) 8-568</p> <p>(5) 1-181</p>
濃度または濃度範囲	<p>(1) 25.2%</p> <p>(2) 12.2%</p> <p>(3) 6.6%</p> <p>(4) 2.75%</p> <p>(5) 1.92%</p> <p>(6) 51.33%</p>
GHS分類に寄与する危険有害成分	酸化チタン
製品の危険有害性に寄与しない微量成分	該当なし

#### 4. 応急措置

##### 吸入した場合

- ・ 被災者を直ちに新鮮な空気の場合に移動させる。
- ・ 体を毛布などで覆い、保温して安静に保つ。
- ・ 気分が悪いときは、医師に連絡すること。

##### 皮膚に付着した場合

- ・ 多量の水で洗浄する。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。

##### 眼に入った場合

- ・ 直ちに清潔な水で15分以上洗浄した後、眼科医の手当を受ける。
- ・ 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで、水でよく行きわたるように洗浄する。
- ・ コンタクトレンズを使用している場合は、取り除いて洗浄を続ける。

##### 飲み込んだ場合

##### 予想される急性症状及び遅発性症状 応急措置をする者の保護

- ・ 水でよく口の中を洗浄する。
- ・ 皮膚、眼及び呼吸器への刺激
- ・ 救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚、呼吸器の保護具を着用する。

#### 5. 火災時の措置

##### 消火剤

- ・ 散水、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素等の使用が可能である。

##### 使ってはならない消火剤

- ・ 火災が周辺に広がるおそれがあるため、直接の棒状注水を避ける。

##### 特有の危険有害性

- ・ 火災により刺激性又は有害ガスを発生するおそれがある。

##### 特有の消火方法

- ・ 不燃性であるが、周辺火災の場合は速やかに容器を安全な場所に移す。
- ・ 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。

##### 消火を行う者の保護

- ・ 消火作業の際は、適切な保護具を着用することが望ましい。

#### 6. 漏出時の措置

##### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・ 作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

##### 環境に対する注意事項

##### 回収、中和、封じ込め、および浄化の方法

- ・ 濃厚な廃液が河川等に排出されないよう注意する。
- ・ 漏出した製品は空容器に出来るだけ回収し、必要に応じて中和作業を行う。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

##### 技術的対策

- ・ 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

##### 局所排気・全体換気

- ・ 屋外、または換気の良い場所で取り扱う。

##### 安全取扱い注意事項

- ・ 取扱い後はよく手を洗う。

保管

- |  |   |
|--|---|
| <p>技術的対策</p> <p>混触禁止物質</p> <p>保管条件</p> <p>容器包装材料</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。</li> <li>・ 情報なし</li> <li>・ 容器は直射日光を避け、密閉した状態で乾燥した場所に貯蔵し、冷暗所で保管する。</li> <li>・ 情報なし</li> </ul> |
|--|---|

8. 暴露防止及び保護措置

- |   |   |
|---|---|
| <p>管理濃度・作業環境評価基準</p> <p>許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）</p> <p>ACGIH TLV-TWA（2009）</p> <p>日本産業衛生学会（2009）</p> | <p>設定されていない</p> <p>10 mg/m<sup>3</sup>（二酸化チタンとして）</p> <p>10 mg/m<sup>3</sup>（セルロースとして）</p> <p>5 mg/m<sup>3</sup>（水酸化カルシウムとして）</p> <p>10 mg/m<sup>3</sup>（グリセリンミストとして）</p> <p>設定されていない</p> |
| <p>保護具</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護手袋の着用、及び必要に応じて飛沫対策として保護眼鏡、マスクの着用が望ましい。</li> </ul>  |
| <p>衛生対策</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取扱い後はよく手を洗うこと。</li> <li>・ 取扱い場所の近傍では飲食、喫煙の禁止。</li> </ul>   |

9. 物理的及び化学的性質

- |                              |                                |
|------------------------------|--------------------------------|
| <p>形状</p> <p>色</p> <p>臭い</p> | <p>液状</p> <p>灰白色</p> <p>無臭</p> |
|------------------------------|--------------------------------|

10. 安定性及び反応性

- |  |  |
|--|--|
| <p>安定性</p> <p>危険有害反応可能性</p> <p>避けるべき条件</p> <p>混触危険物質</p> <p>危険有害な分解生成物</p> | <p>一般的な貯蔵・取扱い条件（室温・常圧）において安定である。</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> <p>情報なし</p> |
|--|--|

11. 有害性情報

- |   |  |
|---|--|
| <p>製品の有害性情報</p> <p>刺激性</p>  | <p>目、粘膜に触れると刺激を与える。</p>  |
| <p>成分の有害性情報</p> <p>炭酸カルシウム</p> <p>急性毒性</p> <p>眼に対する重篤な損傷・刺激性</p> <p>生殖毒性</p> <p>特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）</p> | <p>(経口) ラット、マウスLD<sub>50</sub> = 6,450 mg/kg</p> <p>(吸入) ラットLC<sub>0</sub> &gt; 0.0812 mg/L</p> <p>眼に入ると刺激性症状を呈する。</p> <p>交配期間及び妊娠期間の計6週間、ラットに炭酸カルシウムを1.25%含む餌を摂取させた試験で、有意な影響はみられていない。</p> <p>ラットに炭酸カルシウムを1.5%の濃度で32週間混餌投与した試験において、糞中のpHが上昇した。</p> |

## 酸化チタン

<p>急性毒性</p>	<p>(経口) ラット、マウスLD<sub>50</sub> &gt; 10,000 mg/kg (吸入：粉塵) ラットLC &gt; 6.82 mg/L (4時間) (経皮) ウサギ 概算のLD<sub>50</sub> &gt; 10,000 mg/kg</p>
<p>皮膚腐食性・刺激性</p>	<p>ウサギを用いた試験で刺激性が殆ど認められなかった。</p>
<p>眼に対する重篤な損傷・刺激性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性</p>	<p>ウサギを用いた試験で中等度の刺激性がみられた。 ヒトのパッチテストで皮膚感作性はみられなかった。 (<i>in vivo</i>) マウスを用いた小核試験：陰性 (<i>in vivo</i>) マウスを用いた染色体異常試験：陰性</p>
<p>発がん性</p>	<p>粉じんでの試験データより、IARCがグループ2B (ヒトに対して発がん性がある可能性がある) に分類している。 ACGIHがA4 (ヒトに対して発がん性が分類できない物質) に分類している。 フェームは気道を刺激する。</p>
<p>特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)</p>	
<p>特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)</p>	<p>粉じんを20年以上職業暴露しているごくわずかの労働者にX線検査で塵肺症変化が明らかになったが、肺機能の変化はなかった。</p>

## グリセリン

<p>急性毒性</p>	<p>(経口) ラットLD<sub>50</sub> = 27,200 mg/kg、マウスLD<sub>50</sub> = 26,000 mg/kg (経皮) ウサギLD<sub>50</sub> = 18,700 mg/kg</p>
<p>皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・刺激性 皮膚感作性 生殖毒性</p>	<p>ウサギを用いた皮膚刺激性試験で刺激性なし。 ウサギを用いた眼刺激性試験で刺激性なし。 ヒトのパッチテストで陰性であった。 ラットの経口投与による2世代試験で、親動物の性機能及び生殖能への影響、生後の児の発生指標への影響は認められなかった。</p>
<p>特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)</p>	<p>ラットの2年間経口投与試験で、高用量群 (1,000 mg/kg) でも有害な影響は認められなかった。</p>

## セルロース

<p>急性毒性</p>	<p>(経口) ラットLD<sub>50</sub> &gt; 5,000 mg/kg (経皮) ウサギLD<sub>50</sub> &gt; 2,000 mg/kg (吸入：粉塵) ラットLC<sub>50</sub> &gt; 5 mg/L (4時間)</p>
<p>皮膚腐食性・刺激性 生殖細胞変異原性 特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)</p>	<p>刺激性なし (<i>in vitro</i>) Ames試験：陰性 ラットを用いた90日間反復投与毒性試験で、2,000 mg/kg/日群に血液及び病理組織学的変化はみられなかった。</p>

水酸化カルシウム

急性毒性

皮膚腐食性・刺激性

眼に対する重篤な損傷・刺激性

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）

特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）

(経口) ラットLD<sub>50</sub> = 7,340 mg/kg

ヒトの皮膚に対して、中等度の刺激性～腐食性を示した。

ヒトの眼に対して、中等度の刺激～腐食性を示した。ウサギに10%溶液を点眼したDraize試験では腐食性を示した。

ヒト呼吸器、気道を刺激し、肺水腫を引き起こす。

粉じん粒子暴露により、ヒトの肺を冒すことがある。

12. 環境影響情報

製品の有害性情報

情報なし

成分の有害性情報

炭酸カルシウム

生態毒性（急性）

魚類(カダヤシ) 96-h LC<sub>50</sub> > 56,000 mg/L

生体蓄積性

低濃縮性 (BCF < 1.1~9.6)

酸化チタン

生態毒性（急性）

甲殻類（オオミジンコ） 48-h EC<sub>50</sub> > 1,000 mg/L

グリセリン

生態毒性（急性）

甲殻類(オオミジンコ) 48-h EC<sub>50</sub> > 153,000 mg/L

分解性

標準法による生分解性試験BOD=63%

セルロース

分解性

良分解性

水酸化カルシウム

生態毒性（急性）

甲殻類（カダヤシ） 96-h LC<sub>50</sub> > 160 mg/L

魚類（グッピー） 96-h LC<sub>50</sub> > 356 mg/L

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- ・ 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器および包装

- ・ 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

**14. 輸送上の注意**

## 国際規制

国連番号 該当しない

品名 該当しない

国連分類 該当しない

海洋汚染物質 該当

## 国内規制

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号 該当しない

## 特別の安全対策

該当しない

- ・ 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

**15. 適用法令**

## 労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物：酸化チタン (IV) (1重量%以上を含有する製剤その他のもの)、水酸化カルシウム (1重量%以上を含有する製剤その他のもの)

## 海洋汚染防止法

有害液体物質 (Z類) (炭酸カルシウム、酸化チタン、水酸化カルシウム、グリセリン)

**16. その他の情報**

## 引用文献

- ・ EU (2000) IUCLID database.
- ・ U.S. EPA (2010) ECOTOX database.

**【注意】** 本SDSは、JIS Z 7250:2005、JIS Z 7251:2006に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意ください。本SDSの記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の実施を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。